

植物と人々の博物館メールマガジン

第 125 号 2025 年 8 月 6 日発行



~~~~~  
美味しいジャガイモなどを、岡部さんや秋子さんからたくさん頂きました。いろいろな料理にしています。カレーはもちろん、サラダ、サブジー、セイダノタマジなどです。在来のはんじろキュウリもいただきました。韓国風ピクルスにします。昔、名古屋の韓国領事宅で教わったのですが、最近のごく簡便法で作ります。3 cm くらいに輪切りにして、十字に半分切れ目を入れ、酢と納豆たれのあまりを鍋で混ぜて、ここにキュウリを入れて、ごく軽く汁を煮立たせて、火を止めて出来上がりです。冷やして食べれば美味しいです。もう一つ、キュウリをちぎるか、叩き割って、醤油、胡麻油、摺りショウガで和えます。

植物と人々の博物館は先達たちから引き継いだ社会的共通文化財である植物標本、民具、文献資料や書籍を整理して森とむらの図書室を充実し、連携しているタイ・日本自然クラブの展示も再開しています。ご利用くださり、整理も一緒に手伝っていただければありがたいです。できることなら、これらの資料は公共の場所を確保して、広く公開し、ご活用願いたいです。

## 1. 植物と人々の博物館

○開館・作業日：さく葉標本を選別し、民具、書籍の整理を行っています。公共の知的財産として活用していただけるように、ご協力いただけると嬉しいです。

伊能さんが一時帰国されるので、8月31日に予定しています。ご協力いただける方があれば曜日や日時は調整できます。また、資料など閲覧したい方はご連絡ください。

### 主な作業：

- ①書籍 8000 冊・農林業、雑穀、民族植物学、環境、人類学、教育などの資料・書籍の整理、インドの関連書籍も多い。
- ②日本、インド、タイなどの民具の整理
- ③展示の企画：タイの民具の展示、自然文化誌研究会（学大探検部）50 年記念記録
- ④インド亜大陸、中央アジア学術調査隊収集の植物腊葉標本整理、台紙に貼る作業など、
- ⑤その他

### ○報告

- 1) 7 月 13 日、27 日に展示再開作業をしました。中込メ代表理事、中込ミ副代表理

事、黒澤事務局長および木俣の参加です。書籍は大方書架に収まりました。

2) 50 周年記念企画の 1 つとして ZOOM 座談会をしました。その後、動画の視聴希望がありますので、公開します。URL:

[https://us06web.zoom.us/rec/share/s4fPFJ2a2EiGOUzqYR1kan6vTgAm3C Nj-1gjeA9QMHNuUy\\_39eSav-55ZuP9-nFb.jvJU6j\\_42Seh4IGV](https://us06web.zoom.us/rec/share/s4fPFJ2a2EiGOUzqYR1kan6vTgAm3C Nj-1gjeA9QMHNuUy_39eSav-55ZuP9-nFb.jvJU6j_42Seh4IGV)

パスコード : 5&TJfu9o

## ○予定

- 1) 雑穀など展示準備
- 2) 書籍、標本の整理。
- 3) 電子書籍 :

自選集日英文要約版 (第 V 巻 “Essentials of Ethnobotany on Millets ~Their Origin and Dispersal around Indian Subcontinent”) では、穀物に関する新たな栽培起原と伝播仮説および未来への提案をします。同時に、自選集 III 『日本雑穀のむら』の補足として、40 年前の北海道調査における開拓農家やアイヌ民族の人々などとの対談テープの文章化を進めています。自選集 VI 『随筆集—生き物の文明への黙示録』や句集に順次新作を追加しています。

民族植物学ノオト第 19 号は 2025 年末を原稿締め切りとします。どなたでも、ぜひご寄稿ください。第 20 号は北海道での調査や二風谷冒険学校などを特集する予定 (検討中) です。第 18 号は下記です。

[http://www.ppmusee.org/\\_userdata/oto\\_No18.pdf](http://www.ppmusee.org/_userdata/oto_No18.pdf)

4) 公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>に含めて民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>も国会図書館インターネット資料収集保存事業 (ndl.go.jp) で毎年 1 回 7 月 20 日頃に収録されています (すでに 5 回登録済)。<https://warp.da.ndl.go.jp/waid/31424>すべての記事は無料で公開しています。国会図書館の文献録には博士論文や科学研究費報告書などまでが集成されており、ここに保存されている記事は記録として残りますので、とてもありがたいです。無料で皆さんに読んでいただけます。

5) 森とむらの図書室への寄贈など 現在所蔵する書籍 (8000 冊) や文献を整理して、ご利用していただけるように、蔵書リストと閲覧書架を整理充実しています。国内外の調査時におけるフィールド・ノオト、スライド 35mm など、こちらに置きます。リスト作りや番号貼りなど、ご協力いただけるとうれしいです。インド関係、民族植物学、図鑑、世界の料理書、雑穀などの文献、森林政策 (財・森とむらの会の全資料) などに特色があります。

民族植物学関連の資料を先学や篤農たちからお預かりしてきた植物と人々の博物館を受け継いで、継承してほしいです。ヒトがこの人新世に暮らしていくのに、いずれ無くてはならない自然、自然知能 Nin を支える大切な生業の資料であることが世間に

もわかります。木俣文庫は秋から年内には大方配架ができます。古典から新刊まで、良書が多くあります。

<https://www.milletimplic.net/forestvil/forestvil.html>

## 6) 雑穀栽培

簡単な栽培や加工、調理法などは下記にあります。不明なことがありましたら、メールください。

栽培法 [雑穀 ～とりあえずの栽培法 \(milletimplic.net\)](#)  
[farmsklec8p.pdf \(milletimplic.net\)](#)

加工法 [雑穀類の加工方法 \(milletimplic.net\)](#)

詳細な調査記録は『日本雑穀のむら』『雑穀の民族植物学～インド亜大陸の農山村から』を検索してお読みください。ダイジェスト版は『穀物の起原と伝播』です。

上岩でも小菅でも、高齢の雑穀栽培者がいます。自立した誇り高い人生の姿に敬意を持ちます。

## 7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金をお願いしています。これまでにゼミなどの会場で多くの方々からのご協力をいただきました。ありがとうございます。将来に向けて、植物と人々の博物館へのご寄附あるいは整理作業のご協力を、よろしく願います。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。標本、民具、書籍などを社会的共通文化財として公共の施設で保存・公開するために、費目指定でご寄附をいただけるとありがたいです。今のところ、上野原市西原のびりゅう館に森とむらの会文庫を一括貸し出しています。他に数名の方に、まとめて関係資料を貸し出しています。

これまでに、多くの方にご寄附を頂き、多くの書架を購入できて、感謝しています。

郵便振込口座は下記です。

口座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

口座番号：00100-2-665768

## 2. 自然文化誌研究会（学大探検部：東京学芸大学自然文化誌研究会冒険探検部）

### ○予定

1) 自然文化誌研究会（東京学芸大学冒険探検部）は 2025 年に創立 50 周年を迎えました。今までの活動履歴を示す 50 周年記念誌をまとめています。今後の更なる発展を期待します。

### 2) INCH と私～今までとこれから

50 年間に関わった人々との思い出を語り合う会（10 月 4 日～5 日）。環境学習セミナー、公開講座、冒険学校や農学校、関係市民も皆さん、いろいろな環境保全、環境学習活動で、何万人もが場と時を共有した東京学芸大学彩色園で、1 泊 2 日を過ごしま

す。学大環境教育研究センターの了承も得られています。楽しみにお集まりください。

日時：2025 年 10 月 4 日（土）～5 日（日）、1 泊 2 日、日帰り自由参加

場所：東京学芸大学彩色園など。後援承認を得ています。

内容：写真展、談話会、50 年記念誌の発行などを検討中。

<http://www.npo-inch.ppmusee.org>

### 3) 検討中予定：

「環境学習過程 ELF」と日本の教育を考える座談会 ZOOM で実施予定。

小金井環境フォーラムで紹介展示。

植物と人々の博物館の再開内覧会。

### 3. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インターネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。アーカイブは次にあります。

<https://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

生業としての学びを勧めたいです。加えて、各団体による環境＋観光＋教育産業が実現できることを期待します。

民族植物学講義資料をカリキュラムにして体系的に公開します。植物の種子、保存方法、栽培、加工、調理、民俗、生物多様性、文化多様性の保全、生業を学ぶ環境学習原論、人新世に暮らす中での希望を探す、などを参考教材（無料）として用意します。実技は各団体の講座を受けてください。

### 小金井環境市民会議

毎日、散歩に行っている場所ですので、次のサイトを作り、日々の彩をお伝えします。小金井環境市民会議のサイトにリンクしてもらいます。

<https://www.milletimplic.net/weedlife/musashinopark.html>

### ○協力団体の案内

#### 1) 里山再生ボランティア入門講座

<https://satoyama-gakkou.org/field/参加者募集里山再生ボランティア入門講座>

#### 2) エコプラスからのお知らせ

- ・田んぼのイロハ稲刈り編（9 月 20-21 日、南魚沼市樺野沢）申込】

<https://forms.gle/RULZujXBvSXJHDAC7>

(オンライン中継も予定。申込者にリンクを送ります)

### 3)新潟国際情報大学異文化塾 豊穡なる主食の世界

11月1日、中東・北アフリカ地域の多様な主食 井堂有子(新潟国際情報大学教授)

11月8日、インドの雑穀と豆類が織りなすカラフルな世界 木俣美樹男(東京学芸大学名誉教授)

11月22日、食卓の「こころ」～東南アジアにおけるお米のお話 ジュリアス・マルティネス(新潟国際情報大学准教授)

12月6日、ライムギとスパイスの世界～北欧・バルト、東欧、黒海沿岸に広がる豊かなパン食文化 リューデ・アンナ(新潟国際情報大学准教授)

~~~~~

植物と人々の博物館 (山梨県小菅村):

館長: 木下善晴、顧問研究員; 安孫子昭二

研究員: 木俣美樹男(東京、専任研究員、担当運営委員)、西村俊(石川、担当理事)、井村礼恵(東京、担当運営委員)、川上香(長野)、渡辺隆一(長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley(千葉)、伊能まゆ(ベトナム)、大澤由実(神奈川)ほか

公式HP: 自然文化誌研究会/植物と人々の博物館 <http://www.npo-inch.ppmusee.org/>

事務担当幹事 メールマガジン発行: 木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

民族植物学関係HP: 生き物の文明への黙示録 <https://www.milletimplic.net/>

エコミュージアム日本村/ミューゼス研究会 (山梨県小菅村): 代表 亀井雄次(山梨小菅村)

自然文化誌研究会: 代表 中込卓男(東京)、副代表 中込貴芳(東京)、小川泰彦(埼玉)

事務局長: 黒澤友彦(山梨県小菅村)

伝統知顧問: 守屋秋子(小菅村)、岡部良雄(丹波山村)

~~~~~

### 編集子の独り言:

この50年、農業関係の方々にはいくら提案しても取り上げてもらえなかった。農業技術は関係者にとってももちろん一番に重要であるが、一般市民にとっては農作物の価格が重要なのであろう。子どもたちや一般市民には一般農業教育が必要である。この提案は誰も取り上げてくれない。業界と行政を含めて、農業(技術)教育→食農教育→食育と軽薄短小方向に崩落してしまった。教育学習理論に拠らず、商業主義に堕してきたのである。一方、林業関係は現実に厳しい状況にあったので、森林環境教育に林業技術も加えて、森とむらの会や国土緑化推進機構などの努力により、それなりに関心を広げて実践を実行蓄積してきた。この教育実践は森とむらの会から自然文化誌研究会に託されたことである。

大学公開講座「子供のための冒険学校」では、夜ごとに、佐藤雅彦さんらと率直な学校教育について議論を繰り返してきた。これがELF環境学習過程の支柱になったの

だ。深い議論をもう一度、若い教育者たちとしてみたい。このくにの危機にある子どもたちへの教育に再生の希望を提案したい。ぜひ、ZOOM 座談会を広く呼び掛けて開催してほしい。

写真：



武蔵野公園の蟬、ミンミンゼミ



小菅消防署の横の花々